



現代の名工に選出された

戸塚 順一 さん

PROFILE

とづか じゅんいち(新野南・67)
 有限会社戸塚組監査役。静岡県鶯工業連合会若鶯会の会長や役員などを歴任し業界の発展に寄与した。



半世紀の努力報われた

厚生労働省は11月11日、工芸や工業、調理などの各分野で卓越した技能をもつ150人を2018年度の「現代の名工」に選んだと発表した。この制度は、職人の目標を示し、将来を担う優秀な技能者の確保や育成を進め、優れた技術を次の世代に承継していくことを目的に実施されている。選考されるには「極めて優れた技能を有する」「技能を通じて労働者の福祉の増進や産業の発展に寄与した」といった要件を満たさなければならない。技術者にとって荣誉あるこの称号を戸塚順一さんが得た。

従事している業者がなく、そこに目をつけたことが始まりだった。独学で技術や知識を身につけ、曳家や足場、解体工事など数多くの工事を手掛けてきた。その中でも曳家工事の施工実績は300件を超え、他業者からも一目置かれる存在となっている。

戸塚さんは、建築とび工として長年従事している。その間、静岡県知事表彰なども受賞した。今回の受賞については、「18歳からこの職業に就き来年で50年になる。今までやってきたことが報われた」と喜ぶ。

戸塚さんが、曳家工事で使用する道具は大きく分けて3つ。レンドージャッキ、チルホール、茶玉だ。この3つの機材とレールなどを巧みに使い、建物を横に動かしたり、旋回させたりする。戸塚さんは「解体工事をやって、家の構造や特に重さのかかる場所が分かるようになった。それが曳家工事をする上で生きている。市内の鋳物工場や従業員が事務所の中で仕事をしている建物を曳家したことが印象深い」と今までを振り返る。

鶯の全てを伝承したい

戸塚さんが、建築とび工として働き出したのは18歳。当時は、現在のような解体業に

職業訓練指導員の資格を有する戸塚さん。この資格を持つ人は県内でも数人しかいない。「義理と人情とやせがまん」が鶯のモットー。今まで培ってきた知識や技術、心意気、伝統文化を時代に合った形で若手に伝承していきたい」と今後の抱負を話す。